国語　学習への見通しをもち、必要感のある学びの工夫

中札内村立中札内中学校　教諭　佐藤　悠樹

POINT 1　辞書やデジタル教科書で知識及び技能の定着をサポートする

読みが苦手な子の中には、言葉を知らずに読み飛ばしてしまい、その結果、内容を上手に理解できず、興味や関心が薄れている子がいるかもしれない。それを考慮し、毎授業、辞書を傍らに置かせてみてもよいのではないだろうか。意味が分からない言葉をその都度調べられるようにすることで、学習内容がより理解しやすくなるはずである。１人１台端末が整備され、授業での活用が始まっているが、デジタル教科書にも、子どもたちをサポートする機能が備わっている。十勝管内で使われている教科書では、注釈の言葉をクリックすると意味や類義語などの例が表示され、辞書と同様に子どもたちの学びをサポートし、知識及び技能の定着に一役買ってくれるのではないだろうか。

POINT 2　自ら学びに向かえるような「ルーブリック」の提示

国語科で指導する内容の中には、子どもが必要感をもちにくいものもある。「単語の活用」などの文法は、教師が頭を悩ませる分野の一つである。教科書では文法の指導事項は間を空けて掲載されている。そのため、つながりをもちづらく、理解しづらいのと感じている子どももいるのではないだろうか。

また、古典分野においても、「なぜ昔のことを学ぶのか」という子どもの声が大きいように感じる。「温故知新」と言うのは簡単だが、実感するには必要感がどうにも足りない。

そこで、その必要感を高めるために課題設定を明確にする必要があると考える。その方法の一つとして「ルーブリックを活用した評価方法」が挙げられる。

下の例は、POINT３で紹介する「比喩表現を使って詩を創作する」の単元におけるルーブリックである。Ｂ評価を基準として、Ａ評価に至るための手立てを記述してある。これは、学習者への課題であると同時に、授業の内容がどれだけ学習者の力になっているかについて、教師が判断することができるのではないだろうか。かつ子どもたちが身に付いた力を実感できる課題にすることで、自ら進んで調べることができ、課題を通して学習が深まってくるのではないだろうか。国語への興味や関心を土台にして、子どもたちが何を身に付けるのかを明確にした道筋を示すルーブリックは、子どもたちの学びを深めるために有効ではないかと考える。

子どもたちが必要感を感じるためには、言葉が日常に生きて働く力であることを実感することが大切である。授業の中で「実の場」を用意したり、授業外とつなげたりするためには、教師と子どもが同じ見通しをもたなくてはならない。その際に、ルーブリックが子どもたちの関心や意欲を高め、学びを深めることにつながるのではないかと考えた。

A	比喩や表現技法を用いて、自分の思いを込めた詩を書くことができる。
B	比喩や表現技法を用いて、詩を書くことができる。
C	Ｂの基準に達していない。

【ルーブリック評価の例】

POINT1　知識・技能
辞書等の活用

POINT2　思考・判断・表現
ルーブリックの活用

POINT3　主体的に学習に取り組む態度
単元の見通し・振り返り

POINT 3　学習に見通しをもって、単元で身に付けたい力を最初に確認する

学習指導要領の改訂により、見通しをもたせることの重要性や、そのことが子どもたちに学習内容を定着させるために有用な手段であることが広く認識されるようになった。

見通しをもたせる際には、教師側がどのような意図をもって教材を扱いたいのか、どのような力を身に付けさせたいのかを明確にし、指導することが必要だろう。そうすることで、子どもたちもそれに向かって努力するのではないだろうか。また、授業の目的を明確にしておくことで、子どもたちにとってどのような学びになったか、教師側が正確に効果を測れるのではないだろうか。

この「指導と評価の一体化」を目指した取組は、以下のようなワークシートを使用しながら行っている。子どもたちにはこのワークシートのことを便宜上「シラバス」として伝えている。もともとシラバスとは、「全体の授業計画」を指すものだ。しかし、実際には単元ごとの授業計画を示し、子どもたちがどのように学びを進めるのかについて、自分で確認することができるようになっている。

「単元名」に本教材における言語活動を示し、それが最終的な評価にもつながるようにする。子どもたちは「最後は詩を書いて交流するのだ」と意識しながら『虹の足』を読み進めることができるだろう。「知識・技能」「思考・判断・表現」の欄ごとに分けて振り返りを行うことで、子どもたちは自分の学びを確認し、調整し、次の学びにつなげようとすることができる。そして、教師側もそのシートを見ることで、どのように子どもたちが学んだかを見取り、授業改善へとつなげられるのではないだろうか。

単元名　比喩表現を使って詩を創作する　　番号　　氏名

教材名　虹の足　　予定総時数　2

チェック	時間	目標	評価の観点・重要事項	評価項目 知識・技能	評価項目 思考・判断・表現	評価項目 主体的に学習に取り組む態度	一言メモ
	1	表現技法や語句に注意しながら内容を理解する	表現技法や語句に注意しながら内容を理解することができたか	○			作者の幸福論についてどう思ったか感想を書く
	2	『虹の足』に倣って、表現技法や語句にこだわりながら詩を創作する	『虹の足』に倣って、表現技法や語句にこだわりながら詩を創作することができたか		○	○	
	3						
	4						
	5						
	6						
	7						
	8						

言語活動を設定する

この単元で身に付いた力を振り返る

身に付いた力を、どのように活用したかについて振り返る

【評価】知識・技能
・「虹の足」を読んで作者の幸福論について考える力。
・文章から特徴的な表現技法や語句を見付け、それらが文章の中でどのような意味や役割をもっているか考える力。
・「虹の足」に倣って、自分の考えたテーマで比喩表現などを用い詩を創作する方法。

思考・判断・表現
・詩を書くポイントとして、ポジティブな発想を文章にしていくことや、テーマをしっかり決め、自分自身の思いなどを取り入れられるようにした。
・「虹の足」を読む際に、作者の思いや考えを表現技法や語句に着目しながら読み進め、教科書に着目したポイントを印を付けて後で見直したときに分かりやすいようにした。

【見通しをもたせるためのワークシート】

社会　内容のまとまりの中で、子どもの学びを深める指導の工夫

芽室町立芽室中学校　教諭　大橋　一博

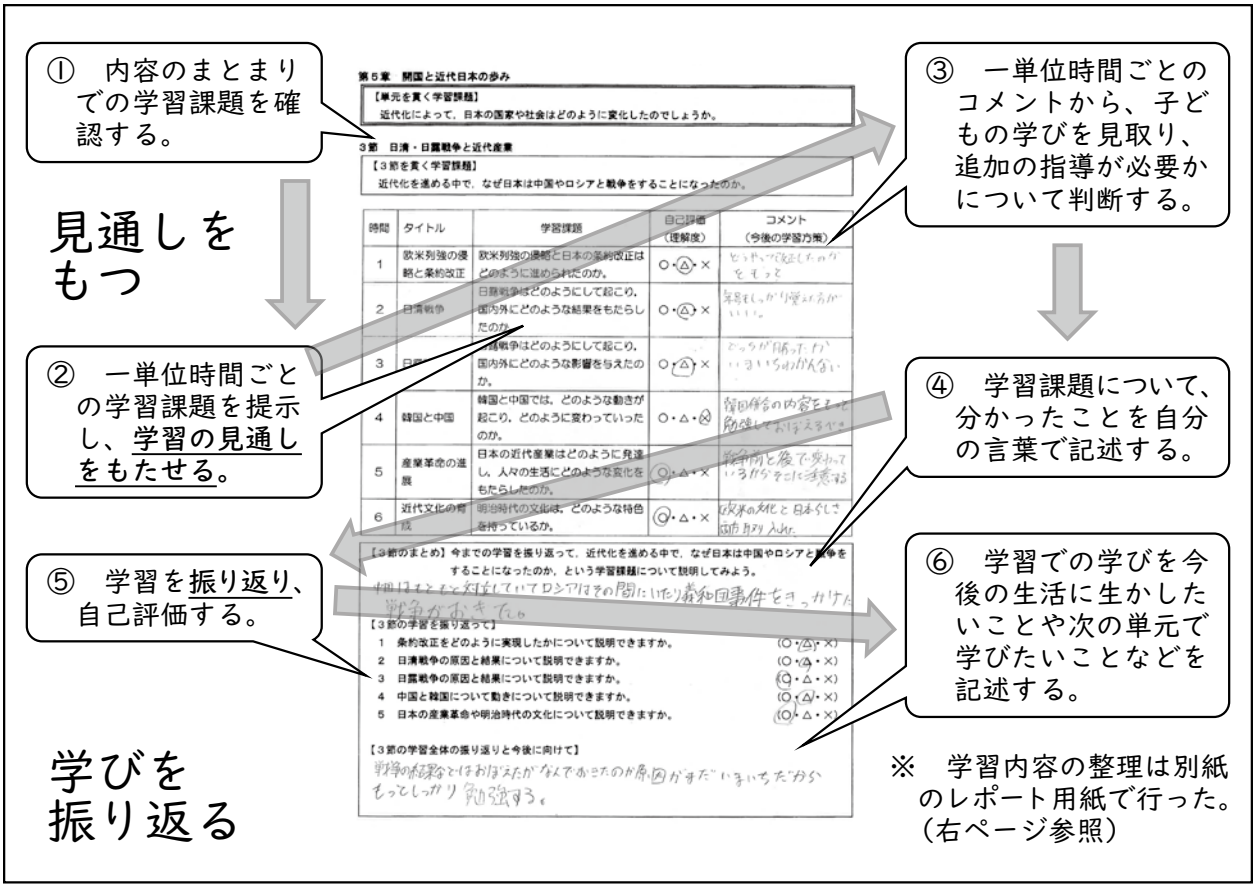
POINT 1　学習の見通しをもち、学びを振り返るワークシートの工夫

子どもが、見通しをもち、学びを振り返ることは、主体的に学習に取り組む態度を育む上でも、ポイントとなるのではないだろうか。

新しい学習評価の観点となった「主体的に学習に取り組む態度」は、粘り強く学習に取り組むことができたかについてと、子どもたちが見通しをもち、学習を調整することができたかについて、総合的に評価することとなる。その際に、子どもの学びを見取るために工夫したワークシートを以下のように作成し、実践を行った。

学習指導要領では、内容のまとまりでの指導が求められており、三観点をバランスよく見取ることが重要だとされている。

その際に、子どもの学習の振り返りを基に、学習方法の指導をしたり、単元の終わりに、学びから分かったことをどのくらい記述することができるかを確認したりすることができるだろう。さらに、単元の学習の終了後に、次の単元に向けて、どのようなことを学びたいかなど、態度を見取るための様々な材料から、子どもの学びも教師自身の指導についても振り返ることができると考える。



【見通しと振り返りのためのワークシート例】

POINT1　主体的に学習に取り組む態度

見通しと振り返り

POINT2　思考・判断・表現

自分の言葉で説明する機会を増やす

POINT 2　話合いなどを通して自分の言葉で説明する機会を増やす工夫

思考力、判断力、表現力等を育むためには、社会的事象を自分の言葉で説明する活動がよく行われる。「なぜ〇〇が起こったのだろうか」という学習課題について、資料等を読み解いて、グループ活動によって学習を進める方法で考える学習活動を行うことも多いことだろう。

しかし、その際、社会科が得意な一部の子どもだけが発言し、ほとんどの子どもにとって学びが深まっていない状況になってしまうことがあるのではないだろうか。

そのため、話合いの方法について一工夫加えた実践を紹介したい。

本実践は、「日清・日露戦争と近代産業」の第３時「日露戦争」の授業で、以下の流れで進めた。

１　学習課題

なぜ日露戦争が起こったのかについて、様々な資料を活用して説明しよう

２　学習の見通し

４つの資料から当時の国際関係や社会の様子について分析しながら、日露戦争が起こった原因について、説明することを確認する。

３　活用した４つの資料

(1)　ビゴーの風刺画
(2)　日露戦争前後の国際関係を表した図
(3)　列強の中国分割を表した地図
(4)　国内世論の様子を表した文章

４　担当する資料が同じ人と分析

自分のグループでの説明に備え、集中して取り組む様子が見られた。

【自分が担当する資料を分析する様子】

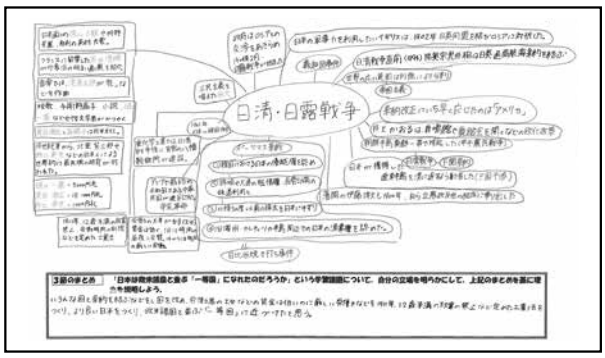
５　各グループでの学びを友達に説明

友達と確認した内容を話すことで、自信をもって説明することができた。

【担当の資料を友達に説明する様子】

６　グループでの学びを全体で共有

７　レポート用紙に整理



【子どものレポートの例】

グループで担当する資料を決めることで、子どもたち全員が必ず説明しなければならない。そうすることで、社会科に苦手意識をもつ子どもでも、学んだ知識を自分の言葉で説明しようとする中で、思考力、判断力、表現力等が高まり、学びが深まっていくのではないかと考える。

数学　知識及び技能の定着を図り、見通しや振り返りを重視する授業づくり

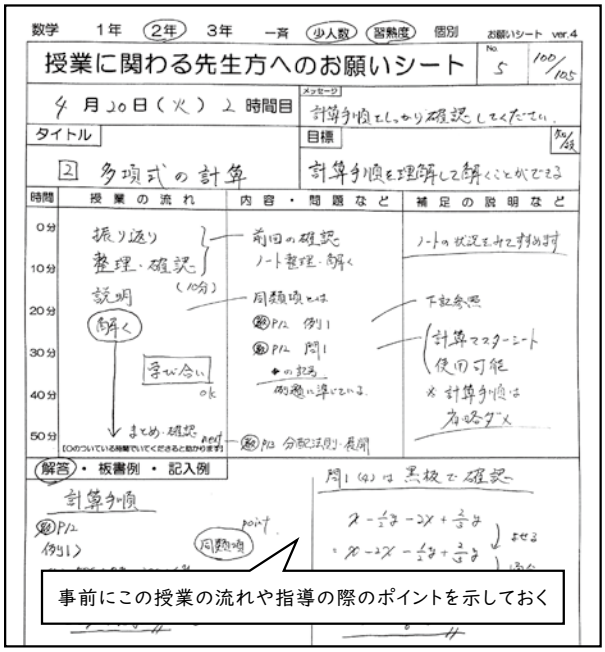
幕別町立幕別中学校　教諭　角田　裕司

POINT 1　知識及び技能の定着を図るための授業づくりの工夫

数学の学習では、抽象的な概念を理解することや、探究的に解法を見いだしていくことも大切であるが、練習などによる基礎的な知識及び技能の定着も必要とされている。知識及び技能の定着を図るためには、授業の中での教師の関わりや教科書の効果的な活用方法、学び合いの位置づけなどを意識した授業づくりをしていくことが大切だと思われる。そこで、次のような取組が考えられる。

1　複数の教師で指導するための工夫

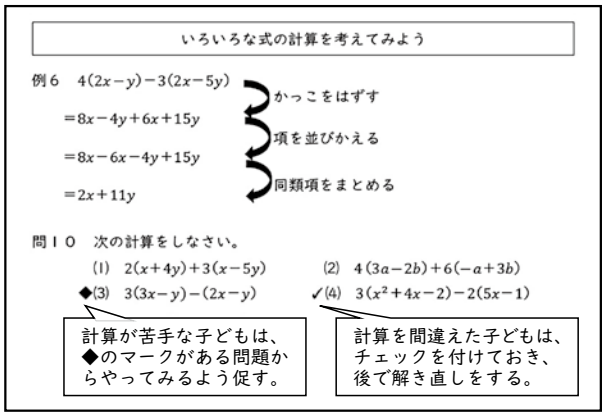
数学の授業では、複数の教師が授業に関わることがある。そこで、事前に指導方法を確認しておくことで、子どもに教える際のばらつきがなくなると考えられる。



【授業の流れや内容を示したシート例】

2　教科書の効果的な活用方法

教科書の練習問題は、例題と似た問題に◆印が付いている。計算が苦手な子どもは、このマークの問題から解き始めると学習内容を身に付けることができる。このように、子どもの理解度に応じて教科書を活用したり、間違えた問題にチェックを入れて、あとで解き直したりするなど、教科書を活用した授業づくりは、子どもの知識及び技能の定着に重要ではないだろうか。



【教科書の効果的な活用方法】

3　授業における学び合いの位置づけ

知識及び技能の定着を図るためにも授業における学び合いは効果的であると考える。さらに、学び合い活動は知識及び技能の習得と活用にもつながるような活動になるのではないだろうか。

【子どもによる学び合い活動の様子】

POINT1　知識・技能

知識及び技能の定着を図る３つの工夫

POINT2　主体的に学習に取り組む態度

見通し、振り返りの場面での２つの工夫

POINT 2　見通しをもったり、振り返ったりするための工夫

子どもがこれからの時代に必要な資質・能力を育むためには「何ができるようになるか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」の見通しを立てることも大切だとされている。そのためには、次のような手立てが考えられる。

１　シラバス

シラバスとは、単元のまとまりと授業の評価の観点を示したものとしている。（資料１）

基本的に単元の始めに、シラバスを用いて、単元のめあてや学習予定について説明する。また、単元での進み方に応じて、今後どのくらいのスピードで進んでいくのか、どのような流れで学んでいくのかを定期的に確認し、見通しをもって学習に取り組むことができるであろう。

２　セルフチェックシート

セルフチェックシートは、私の授業においては授業での目標や取組を子どもが自分で振り返ることのできる項目を設けたシートのこととしている。（資料２）

授業の終わりに自分の学習を振り返り、どのような姿勢で取り組むことができたかのチェックを行い、「できるようになったこと」「次に向けて頑張りたいこと」を記述で書くようにする。さらに、今日の学びをどのように家庭学習に位置づけるかを記入する。

これら２つの取組を継続的に行うことで、授業での積み重ねが確認できたり、自らの学びを見通したり振り返ったりすることができるのではないだろうか。そして、自分は何ができるようになり、今後はどのようなことを頑張らないといけないのかを考えることで主体的に学習に取り組む姿勢が育まれると考える。

単元シラバス　数学　02

単元名	１章　式の計算	予定時数	１４時間
持ち物	教科書　ノート　ワーク　数学ファイル　筆記用具（定規含む）		
単元のめあて	✓　文字を用いた式の四則計算をしたり、式に表現したりすることができる。 ✓　文字式を使って問題を解決したり、目的に応じて等式を変形したりすることができる。		

❖　学習内容の予定表

時数	学　習　予　定	時数	学　習　予　定
1	単項式と多項式	13	等式の変形　これまでの振り返り（チャンスタイム） Let’s　チャレンジ
2	単項式と多項式	14	単元テスト
3	多項式の計算（計算手順の確認） 計算マスターシート	15	
12	式による説明（カレンダー） ノートづくり	24	

❖　評価規準

評価	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A	・既習事項とつなげながら、様々な文字式の意味について理解している。 ・整式の加法・減法及び単項式の乗法・除法の複数の計算をすることができる。	・数量関係を簡潔かつ一般的に、複数の方法で説明することができる。 ・既習事項を活用して、様々な問題を解くことができる。	・数量関係を見いだし、立式し、粘り強く計算しようとしている。 ・文字を用いた式について学んだことを生活や学習に生かそうとしたり、文字を用いた式を活用した問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしたりしている。
B	・既習事項とつなげながら、文字式の意味について理解している。 ・簡単な整式の加法・減法及び単項式の乗法・除法の計算をすることができる。	・数量関係を簡潔かつ一般的に、説明することができる。 ・既習事項を活用して、問題を解くことができる。	・数量関係を見いだし、立式し、計算しようとしている。 ・文字を用いた式について学んだことを他の問題にも生かそうとしたり、文字を用いた式を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしたりしている。
C	B規準に満たない。		

【資料１　シラバス】

セルフチェック　シート！

P　習ったことなどを家庭学習をして、しっかり復習できた。　がんばっている！
A　応用にも取り組めるようにする。　よくがんばった！

シートNo　1

２年 A 組　番 名前

四月十三日 月曜日	P やったこと D（何を？どのように？）	項目	C チェック！	・できるようになったこと C ・次に頑張りたいこと A	先生から
	授業の流れと一年間の内容確認 （資料を見ながら、説明を聞く）	やる気・興味	NO・・・OK	授業の流れを覚えることができた。いい今！ 次も集中する。よくがんばった！	□よい自己評価！ □頑張っているね！ □伸びてます！ □がんばろう！ □復習しよう！ □聞きにきて！ □くわしく書いて！
		考える・工夫	NO・・OK		
		わかる・できる	NO・・OK		

月 日 曜日	やったこと（何を？どのように？）	項目	チェック！	・できるようになったこと ・次に頑張りたいこと	先生から
	1章 1節 式の計算 日々 ノートまとめ	やる気・興味	NO・・・OK	自分のノートをしっかりまとめることができた。すばらしい！ 次はもっときれいにまとめる。よろしく！	□よい自己評価！ □頑張っているね！ □伸びてます！ □がんばろう！ □復習しよう！ □聞きにきて！ □くわしく書いて！
		考える・工夫	NO・・・OK		
		わかる・できる	NO・・OK		

今日の目標や授業では、何をどのように学んだかについて書くようにする。

授業中の自分の学びの姿やこの時間を振り返り、できるようになったことなどを書く。また、次に向けてすべきことなども書くようにする。

これらの取組を継続的及び関連づけて行うよう努める

【資料２　セルフチェックシート】

理科　学習した知識及び技能を定着させ、学ぶ意欲を高める授業づくり

幕別町立札内東中学校　教諭　笹川　拓哉

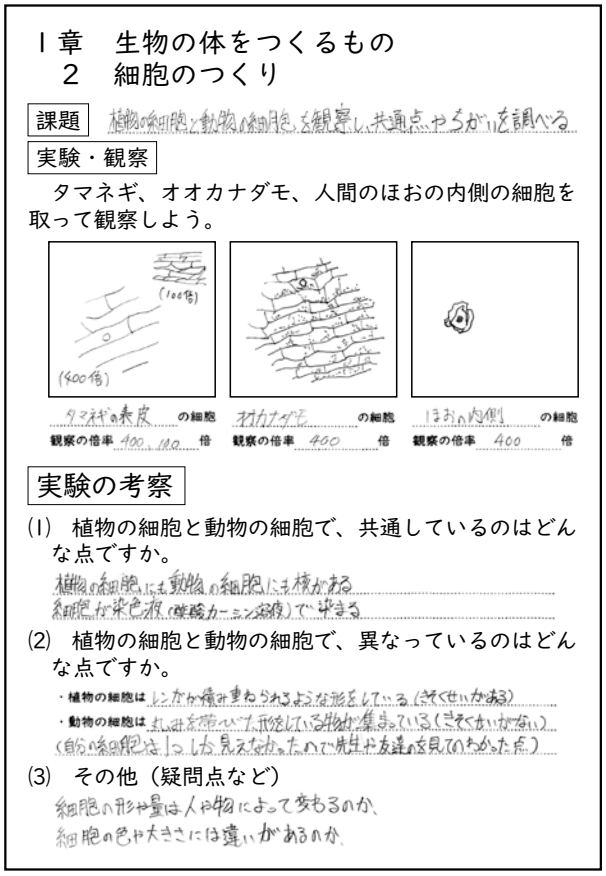
POINT 1　１人１実験で主体的に学習に取り組み、学ぶ意欲を育む

学習指導要領の改訂に伴い、新設された新しい学習評価の観点である「主体的に学習に取り組む態度」は、理科の学習を深めるための土台となるものである。主体的な学びには、学習の自己調整や粘り強い学習への取組以外にも、従来の関心・意欲に関することや、自分の学びに自信をもつ自己効力感なども含まれるのではないかと考えている。そのため、理科の授業での学びが「日常生活に役に立った」と感じることが重要ではないだろうか。

そこで、「理科が役に立つ」という授業での工夫が必要であり、主体的に子どもたちが学ぶ取組の工夫を増やすことが必要であると考えた。今回は、そのうち１人１実験の実践を紹介したい。

２学年で取り組む「植物と動物の細胞のつくり」を調べる観察では、１人１台の顕微鏡を用い、タマネギ、オオカナダモ、頬の内側の細胞を観察し、細胞の共通点や相違点を考える学習活動を行った。一人一人がプレパラートを自ら作ることで、うまくいかない点を見付けたり、周りの人が実験する様子から注意したりする点を考えることができた。また、作成手順や観察手順についても、自分で計画しなければいけないため、正しく理解することにつながった。

【顕微鏡を活用した１人１実験の様子】



１章　生物の体をつくるもの
２　細胞のつくり

課題　植物の細胞と動物の細胞を観察し、共通点やちがいを調べる

実験・観察

タマネギ、オオカナダモ、人間のほおの内側の細胞を取って観察しよう。

タマネギの表皮 の細胞　観察の倍率 400, 100 倍
オオカナダモ の細胞　観察の倍率 400 倍
ほおの内側 の細胞　観察の倍率 400 倍

実験の考察

(1)　植物の細胞と動物の細胞で、共通しているのはどんな点ですか。

植物の細胞にも動物の細胞にも核がある
細胞が染色液（酢酸カーミン溶液）で染まる

(2)　植物の細胞と動物の細胞で、異なっているのはどんな点ですか。

・植物の細胞は レンガか積み重ねられるような形をしている（きそくせいがある）
・動物の細胞は まわりを囲いて、形をしている物が集まっている（きそくがない）
（自らの細胞は1つしか見えなかったので先生や友達の方を見てわかった点）

(3)　その他（疑問点など）

細胞の形や量は人や物によって変わるのか、
細胞の色や大きさには違いがあるのか。

【子どもの実験・観察レポート】

このように、個人が実験において「主役」になることで、記録がより正確で詳しくなり、考察も以前より記述量が増えてきており、子どもたちの意欲の高まりを感じ取ることができた。全ての実験を１人１実験にすることはできないが、自分事として捉えられるよう、時折このような活動を入れてはどうだろうか。自分で観察し確かめることで、結果に対して「驚き」や「感動」が生まれ、もっと知りたいと意欲が向上すると考えている。

POINT1　主体的に学習に取り組む態度

１人１実験で意欲を育む

POINT2　知識・技能

振り返り活動の工夫

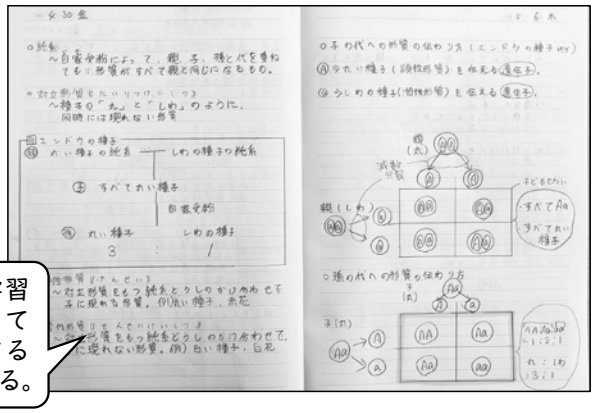
POINT 2　ワークシートを活用した振り返り活動の工夫

POINT１で述べたような指導の工夫により、理科の学習への意欲が高まったとしても、知識及び技能が定着していなければ、子どもたちが理科を楽しいと実感することは少ないと感じている。知識及び技能の定着のために取り組む活動として、授業の最後にワークシートを用いた振り返りを大切にしている。ノートやワークシートには、子どもたちに知識を習得させたり、思考を活性化させたり、学びの振り返りをさせたりする働きがあると考えた。ただし、ワークシートを使用する際は目的を明確にしておくことが重要だろう。私は、ノートとワークシートを右のように使い分けている。

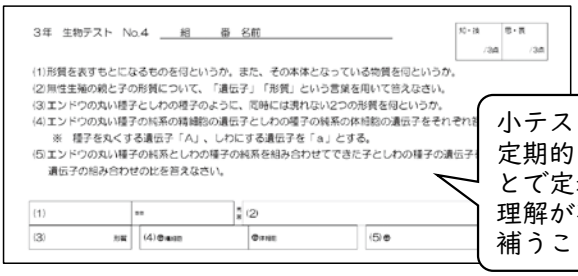
・ノート
　→学習した内容をまとめて知識をインプットするためのもの。
・ワークシート・小テスト
　→実験結果の振り返りや、実験の仕組みを振り返り、アウトプットしながら改めて考察するためのもの。

子どもたちは、ノートにインプットした学習内容を、ワークシートや小テストでアウトプットし、定着していないところは解き直すことで確実に理解度を高めることができている。インプットとアウトプットの学習の継続した繰り返しにより、知識及び技能が定着してくるのではないだろうか。

ワークシートは、実験の仕組みや内容を振り返り、アウトプットするために使用する。



ノートは、学習内容を整理してインプットするために使用する。



小テストは短時間で定期的に実施することで定着度を測り、理解が不十分な点を補うことができる。

【目的に応じたワークシートやノート、小テストの工夫の例】

英語　「統合的な言語活動」で子どもの学びを深める指導の工夫

中札内村立中札内中学校　教諭　安食　正人

POINT 1　五領域の統合的な言語活動を意識した帯活動

学習指導要領が改訂され、「内容のまとまり」として、「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと［やり取り］」、「話すこと［発表］」、「書くこと」の五つの領域に整理された。さらに、これらの領域を統合した言語活動を行うことが重要だと示されている。

上記を踏まえ、一工夫加えた「帯活動」を紹介したい。次の活動を通じて、自己関連性のある話題に対し、子どもたちが生き生きと対話をする姿が見られるのである。このような自己表現活動を通して、新たな自分に気付いたり、他者理解が深まったりする中で、互いの気持ちや考えを伝え合いたいという動機づけの高まりが期待できると考える。

この活動では、即興的にやり取りをした後で、その内容を毎回、英語で書く。７～１０回程度やり取りした内容を基にスピーチ文を作成し、最後にスピーチを行うことから、「話すこと［やり取り］」や「書くこと」、「話すこと［発表］」と複数の領域にまたがる統合的な言語活動を行うことができる。このような活動を習慣化することで、言語の統合的な活動への子どもたちのレディネスが高まることも大いに期待できるだろう。

日常の授業では、１単位時間の指導の重点とねらいによっては、複数の領域を統合する活動を十分に行うことが難しいことがある。しかし、題材や発問を工夫した短時間の帯活動では、領域の統合を意識した活動を少しずつではあるが、着実に継続していくことができるのではないだろうか。

① 「自己関連性」のある題材を設定する。
Your wishes come true!

② 題材に関連する発問を毎回１つ提示する。即興的に気持ちや考えをやり取りする。

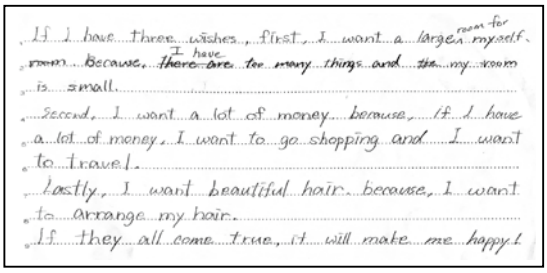
Day1: You have a magic lamp. You can have only three wishes. So, what is your first wish?
Day2: Why is it your first wish?
Day3: What is your second wish?
Day4: Why is it your wish?
Day5: What is your last wish?
Day6: Why is it your wish?
Day7: What will happen if your wishes all come true?

③ ペアでやり取りした自分の気持ちや考えをワークシートに英語で記入する。

④ ②～③を毎回の帯学習で７～１０回程度繰り返した後に、２０分程度でスピーチ原稿作成する。

⑤ 毎回の授業で、数人ずつスピーチ文を発表する。

子どもが作成したスピーチ文


If I have three wishes, first, I want a larger room for myself room because, ~~there are~~ I have ~~too~~ many things and ~~the~~ my room is small.
Second, I want a lot of money because, if I have a lot of money, I want to go shopping and I want to travel.
Lastly, I want beautiful hair because, I want to arrange my hair.
If they all come true, it will make me happy!

【工夫した帯活動の実践例】

POINT1　思考・判断・表現

統合的な言語活動

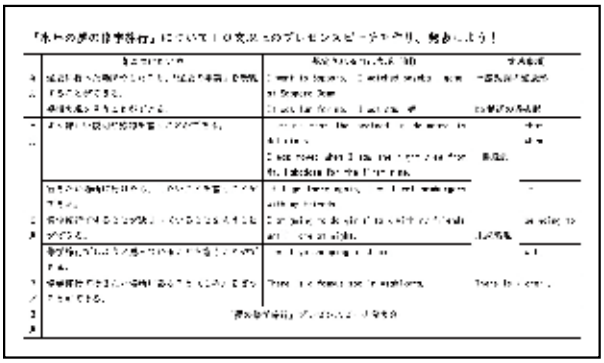
POINT2　主体的に学習に取り組む態度

学びの振り返りを支えるルーブリック

POINT 2　ルーブリックを活用し、複数の言語材料を扱った単元の実施

２学年の前期には、過去形、未来表現、接続詞、There is／are～の文を学ぶ。これらを教科書の内容や進度に合わせて一つ一つ学習していくのではなく、統合的に扱うための自己表現活動、「夢の修学旅行」という単元を設定してみるのはどうだろうか。

この活動を子どもたちに提示するに当たり、到達すべきゴールの姿と、そこに至る道筋を明確に示すことにした。ゴールが明確にされたことで、子どもは見通しをもつことができ、毎回の授業の中で身に付けたい力を意識して主体的に学習に取り組むのではないだろうか。



【自己表現活動の学習計画】

また、身に付けたい力を明確にし、教師と子どもで共有することや、想定される自己表現を示すことで、子どもが発表したい内容をイメージしながら日々の言語活動を進めることができるのではないだろうか。

つまり、ゴールとする自己表現活動において、日々の学びがどのように生かされるのが明確になる。そのことによって、子どもたちはスモールステップを大切にし、子どもたちができるようになったことに注目し、自己の成長を実感できるのではないかと考える。

最後に、このような言語活動の前には評価基準を明確にし、子どもたちの学びをメタ認知させることが大切であると言われている。加えて、子どもたちの今後の学びに生かすための振り返りの重要性も説かれているようである。

それらを考慮すると、学びの振り返りを充実させるためには、自由記述や感想を書くだけではその効果は表れにくいと考える。そこで、「ルーブリック評価」を用いてはどうだろう。ルーブリックの利点は、評価基準に対して、自分のパフォーマンスがどうであったかを視覚化できる点にある。

今後、外国語科の学習で大切なことは、子どもたちが何を身に付け、どのように表現できたのかをメタ認知する能力を身に付けた自己調整することができる学習者に育てていくことではないだろうか。

そのためには、教室環境などをできるだけ英語を使用する場面に近づけ、意図的に複数の領域を統合的に使用させるなど、自分の気持ちや考えを表現する経験を重ねることであると考える。

条件１：修学旅行で行きたい場所が明確になっている。
条件２：行きたい場所について、自分の考えたことや感じたことなどを理由とともに述べている。
条件３：アイコンタクトやジェスチャー、適切な声量、聞き取りやすい発音などを十分に工夫して話している。

観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準		過去形の動詞、接続詞、未来表現、There is / are ～を用いて、過去の経験を含め、修学旅行で行こうとしている場所とそこでやりたいことや理由について具体的に話している。	計画した夢の修学旅行のよさについて、過去の経験を含め、行こうとしている場所とそこでやりたいことや理由について具体的に話している。	計画した夢の修学旅行のよさについて、過去の経験を含め、行こうとしている場所とそこでやりたいことや理由について具体的に話そうとしている。
評価基準	A	既習の語句や表現を使って、正しく話すことができている。	計画した夢の修学旅行のよさについて、過去の経験を含め、行こうとしている場所とそこでやりたいことや理由について与えられた３つの条件を満たして、具体的に話している。	計画した夢の修学旅行のよさについて、過去の経験を含め、行こうとしている場所とそこでやりたいことや理由について与えられた３つの条件を満たして、具体的に話そうとしている。
	B	既習の語句や表現を使って、相手に伝わる程度に正しく話すことができている。	計画した夢の修学旅行のよさについて、条件を満たして話している。	計画した夢の修学旅行のよさについて、条件を満たして話そうとしている。
	C	Ｂの基準を満たしていない。	Ｂの基準を満たしていない。	Ｂの基準を満たしていない。

【作成したルーブリック】